

静岡県公立高等学校PTA連合会

会報

No. 132

目次

会長あいさつ	1p
静岡県高P連総会	2p
事業計画	4p
平成28年度研修会	6p
東海地区高P連合会	
総会・静岡大会	6p
全国高P連 千葉大会	8p
県高P連役員名簿	11p
単位PTA会長名簿	12p
(一財)安全振興会評議員・役員名簿	12p

URL <http://www.hs-pta-shizuoka.net/>



静岡県公立高等学校PTA連合会

会長 杉浦政紀

暦の上では、夏も終わりと申しながらまだまだ暑い日が続いています。

夏休みも終わり、児童・生徒の皆さんはまだ続く暑い環境の中で学習や部活動に励んでいることと思います。本会会員のみなさまはいかがお過ごしでしょうか。

静岡県公立高等学校PTA連合会(以下県高P連)の活動は、各学校の単位PTA活動を原点に生徒の健全育成や学習活動の整備等の事業を中心に、生徒ひとり一人が充実した高校生活が過ごせるように活動しています。また、単位PTA間の連携、さらには東海地区高P連、全国高P連と連携し、事業を推進しています。単位PTAの皆様の本会へのご理解とご協力があればこそと、深く感謝申し上げます。

私は、六月一日、しずぎんホール(ユニフォニア)で開催された県高P連総会において、平成二十八年度の会長に拝命されました。今年で三年目を迎えます。また、その後に行われました平成二十九年度第六七回全国高等学校PTA連合会大会静岡大会実行委員会設立総会において静岡大会実行委員長も拝命されました。

加えて、六月十七日、静岡市民文化会館大ホールで開催された東海高P連総会において、東海地区高等学校PTA連合会会長に就任し、その重責を担うこととなりました。どうぞ、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、県高P連総会では、平成二十七年にPTA活動にご尽力いただいた、単位PTA会長・本会役員合計九十九人の皆様の表彰がありました。受賞された皆様の活動に対して感謝とお礼を申し上げます。

例年、会員の皆様の資質向上を目指す研修会として、平成二十六年度浜松西高校PTA会長であった「龍潭寺住職 武藤宗甫 師」を招き、井伊直虎に学ぶと題してご講演がありました。戦国の激動の時代を生き、関ヶ原の合戦以降、井伊家四百年の歴史の礎を築いた戦国女性の生涯を熱く語られた講演でした。

研修会終了後、来年八月に開催される「第六十七回全国高P連大会静岡大会」の実行委員会設立総会が行われ、はじめに静岡大会ポスター、シンボルマークの決定と作品優秀者の発表及び

受賞が行われました。静岡新茶もえぎ色をイメージカラーに静岡のシンボル「富士山」をあらわした力強い作品です。総会では、実行委員会設置要綱、実行委員会組織・役員等が承認されました。

六月十七日には、静岡市民文化会館大ホールを会場に東海地区高等学校PTA連合会静岡大会が開催されました。講演では、「家庭・学校・地域で取り組むグローバル人材の育成」の演題で、松香洋子氏の対話型のユニークなお話があり、子供たちがグローバルな社会に生きるための家庭でのあり方について強く訴えていました。また、研究発表では「生徒指導とPTA」の分野で、焼津水産高等学校PTAが「生徒指導は朝ご飯から」をテーマに発表し、朝食をしっかりと取ることの重要性について報告があり、皆様より高い評価をいただきました。

結びに、全国高P連大会静岡大会の開催を一年後に控え、実行委員会主管校、協力校の皆様、八月二十四日から千葉大会の視察ありがとうございました。視察の成果を活かしていただき、静岡大会開催・運営が円滑に進められますようお願い申し上げます。



総会・指導者研修会

六月二日(木)すぎんホール(ユーフォニア)において、平成28年度静岡県高P連総会、研修会が開催されました。総会では、会長挨拶、表彰(99人)、被表彰者謝辞、教育長祝辞に続き、平成27年度事業・決算報告、監査報告、役員改選、平成28年度事業計画・予算案が承認されました。

役員改選により、杉浦政紀会長、関隆之副会長、木村光正副会長、青山健副会長が再選され、山崎好和副会長が新任され、高塚勝久氏は顧問に就任されました。議事終了後、安全振興会事業、その後に研修会(講演)が行われました。

【杉浦会長あいさつ】

こんにちは。本日はお忙しい中を、多くの皆様にお集まりいただき、また、ご多用の中、来賓として、県教育委員会会木苗直秀教育長を初め、多くの皆様にご臨席をいただきました。誠にありがとうございます。



平成二十七年一年間、皆様のご協力により、新たな静岡県高P連総会を迎えることができました。そしてご参集の皆様には、単一位PTA役員に任じたご尽力されました。

と、この場を借りてお礼申し上げます。平成二十八年度、新たに単位PTA会長として、あるいは役員として活躍いただける皆様方、またよろしくお願いたします。

私は、静岡県高P連会長になり、これで二年が過ぎました。あつという間の二年間で、何をしているか分からないうちに、ここまで来たというのが実感です。そんな頼りない者でございませけれども、二年間務めさせていただき、本当にありがとうございます。さて、ここで先日、九州・熊本で起きた地震のことで皆様にお願がございませ。

全国高P連から、熊本、大分を中心に被害に遭われた生徒のために義捐金の募金依頼のお話がありました。静岡県高P連としても、ぜひご協力したいと、本日この会場の入り口に義捐金募金箱を置かせていただきます。また、この後の情報交換会に出席される皆様には、そちらの会場にも義捐金募金箱を置きますので、ぜひ協力ください。さいませようお願いたします。そして、被害に遭われた方々には心からお見舞いを申し上げます。

さて、PTA活動は、あくまでも子供のために第一に考え、子供たちの学習環境や健全育成、そしてそれを立派に成し遂げるために、私たち保護者が研修を重ねていかなければいけないと考えています。

PTAの組織は、全国の組織があり、東海地区の組織があり、静岡県の組織があります。また、静岡県の中も十一地区に分か

れています。そして学校毎の単位PTAとなります。

一番身近なところで活動していただく単位PTAの皆様が、いかに活動しやすくするかを考えていくのが、地区であり、県であり、東海であり、全国であります。そのような流れの中で、静岡県高P連として最新の情報や報告される活動例などを提供し、更なる活発なPTA活動にさせていただけるように、少しでもお力になればという気持ちで、この会を進めさせていただいています。

保護者として、子供たちを取り巻くいろいろな問題がございませ。一つ一つの問題や課題を認識していただく中で、「いろいろな違う場所、いろいろな取り組みをされている」といった事例を知っていただきながら、それ自分たちのところで、いかに活用していくかをお考えください。学校毎になるかと思ひますが、ぜひ、力を合わせて、子供たちが健やかに育ちますように、お力添えをいただければと思ひませ。

今日は年に一度の総会です。この後、事業報告、事業計画、そして決算報告、予算等、ご審議ください。その後、実はもう皆様ご存じのことと思ひませが、来年、静岡県で、第六十七回全国高P連大会静岡大会が開催されます。その設立総会もありますので、ぜひ慎重な審議をいただくとともに、スムーズな運営にご協力をお願いいたします。簡単でございませけれども、静岡県高P連の会長としてのご挨拶にかえさせていただきますと思ひませ。本日はよろ

しくお願いたします。

【被表彰者代表挨拶】

私は、静岡高校平成二十七年PTA会長の伊藤と申します。このたびはこのような表彰をいただきました。また、ことにありがとうございます。僭越ながら、九十九名の会長を代表いたしまして、お礼のご挨拶をさせていただきます。

高校のPTA活動は、小中学校とは少し色合いが違ったものであると感じました。高校生になると、進路や将来について、また今後の人生について考えるようになってきて、一番身近な大人である親に関心を持つようになりませ。小中学校での親子という関係性に加えて、人生の先輩という要素も加わった活動が多くなつてきませ。

私どもの学校でも、進路講演会といて、各界で活躍するOBが話をしていますが、きつと各学校でも、それぞれの特性や環境に応じた、個性あふれる活動が行われてきたのではないかとと思ひませ。それぞれの活動については、各会長様も、それぞれPTAを引っ張つてこられたと思ひませが、それも周りの役員さんや委員の皆様、また学校の先生方のご協力があつてのことと感じていることと思ひませ。私も、かかわつた皆様に大変感謝をしております。また、この総会や全国大会等、さまざまな機会、ほかの学校のPTAの方々や情報交換をすることができたことも非常に有意義でした。県高P連の本部役員の皆様にも厚くお礼申し上げます。

今年度は、選挙権が十八歳以上にな

り、政治活動への参加というようなテーマもありますし、来年度は、この静岡で全国大会も行なわれるというところで、県高P連も、ますます新しい活動に取り組まれることと思います。ぜひ今年度の役員の皆様も、頑張ってくださいまして、今後、県高P連の活動がますます発展されることを祈念いたしまして、私の謝辞とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。

**【静岡県教育委員会 祝辞】**

本日は、静岡県公立高等学校PTA連合会の総会が盛大に開催されますこと、誠にめでとございます。先ほどもご挨拶されました杉浦会長様を始め、皆様方には、日ごろ各高等学校、また特別支援学校高等部の教育活動に対して、多大なご支援、ご協力を賜りますとともに、家庭教育の充実や青少年の健全育成にもご尽力いただきまして、深く感謝を申し上げます。また、先ほど表彰を受けられました皆様には、長くPTA活動の振興にご尽力いただいたとお聞きし、心より敬意を表するとともに、お喜び申し上げます。



来賓祝辞 木苗直秀教育長

今月十七日には、東海地区高等学校PTA連合会静岡大会が、そして来年8月には、先ほどもご挨拶にありましたように、全国高等学校PTA連合会大会静岡大会の開催が予定されています。こ

れらは、本県のPTA活動を他県に発信するとともに、本県PTA活動がさらに充実、発展する絶好の機会と考えています。それぞれの大会準備には多大なご苦労があることと思いますが、どうぞよろしく願います。

さて、静岡県は、本年二月、正確には2月23日「富士山の日」と言われますが、このときに「ふじのくに有徳の人づくり大綱」を策定しました。この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い設置された、県総合教育会議の意見等を反映させて策定しました。県では、有徳の人を、「個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し行動する人」と定義し、「有徳の人づくり」を本県教育の基本目標として、この有徳の人づくり実現のため、地域社会の大人が一丸となって、子供を教育する環境づくりに取り組んでいるところです。

県教育委員会では、この大綱の理念を踏まえ、「家庭教育支援の充実」を重点事業の一つとして取り組んでいますが、家庭教育の要は、やはり保護者であり、PTAは学校と家庭と地域をつなげる、とても大切な組織です。PTAの皆様とともに、有徳の人づくりの実現のための各種取り組みを行いたいと思いますので、一層のご支援をよろしく願います。

結びに、静岡県公立高等学校PTA連合会のみならずのご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

**【静岡県高等学校安全振興会 事業概要】**

皆さんこんにちは、安全振興会の理事長で、杉浦会長の前任の会長を務めさせていただきました。鈴木敏彦と申します。どうぞよろしく願います。

6月に入って、暑い日が続いていますが、田植えの時期も迎えて、土のおいと、カエルの鳴き声も聞こえてきそうな初夏を迎えております。冒頭に、杉浦会長からお話がありました、四月十四日と十六日に熊本地方を震源として発生いたしました熊本地震によつて被災された多くの方にお見舞いを申し上げます。また、各高等学校、小中学校では、学びの場が一転して避難場所となり、さまざま学校現場において問題を抱えながら復興に向けて努力されていると思います。

安全振興会は、子供たちの学校での安全・安心を図ることを目的として、きょうこちらにお見えになっておりますが、名誉顧問の芦川さんが中心になつて設立をされました。理事には、県高P連から二名、特別支援学校P連から一名、校長会から四名、県の教育委員会健康体育課から一名、安全振興会事務局から一名というような陣容で構成をされております。本会としては、教育活動に伴って発生した不測の事故に対し、会員に対し最大限の対応に努めております。本日の資料の中に、高等学校安全振興会のしおりと安全振興会の会報に、その詳細が記されております。

昨年度の児童生徒に対する見舞金などの給付状況は、事業報告のとおり、

傷病見舞金といって、学校での部活動、体育等でのけがの補償見舞金が八五四件ということで、昨年度から一五七件プラス、費用にして約二七〇万円。設立当初は三〇〇件ぐらいの発生件数でありましたが、年々増加しています。障害見舞金については、けが、事故等によつて発生した後遺障害などに負担をしています。こちらは年々減少する傾向にあります。年によつて、障害の度合いによつて金額が上下しますが、昨年度は約二、九〇〇万円減額になっています。

特に、傷病見舞金、けがについては、生徒が年々減少している中で、この災害件数が伸びているのは、全国的な傾向になっています。このことを踏まえて、安全振興会では、児童生徒の健康安全に関する研修会等支援事業を本年度、立ち上げました。「児童生徒の災害を未然に防止する研修会」については、一団体年間二〇万円の助成をします。詳細につきましては、事務局のほうに問い合わせをしてください。

既に多く問い合わせをいただき、決定された研修会も二件、三件あるというふう聞いています。

平成二十六年には、校長協会と連携して、公立高等学校や特別支援学校で希望した一四校全校にAEDを設置することができま



安全振興会概要説明 鈴木敏彦理事長

した。この設置は、その学校の生徒だけでなく、練習試合等でたまたま居合わせた生徒、あるいは今回のような震災の場合には、避難所となった地域の方々にも有効に利用されるということ、とても意義の高い事業であったと自負しています。

学校管理下で実際に起きてしまった災害への補償は大切な事業ですが、これからは、災害を事前に防ぐ、または

災害を最小化するということを念頭に置いて、これからも事業を進めたいと思っております。

なお、本会では、自身のけがに対する補償のほかに、静岡県高P連賠償責任補償保険に加入をして、児童生徒の過失による賠償責任、PTA活動におけるPTA管理者等が賠償責任を問われるというような事故に備えております。最近では、自転車での事故責任が

## 第六十七回全国高P連大会 静岡大会実行委員会設立総会

### 一 表彰式

静岡大会ポスター・シンボルマークを募集し、応募作品総数一六五点の中から、最優秀・優秀・佳作が決定した。受賞者は次のとおり

#### ◆ポスターの部

最優秀 伊東高校城ヶ崎分校 楠元璃子  
優 秀 浜松江之島高校 宇井千裕  
杉森美波

佳作 十名

#### ◆シンボルマークの部

最優秀 御殿場高校 北元杜果  
優 秀 伊東高校城ヶ崎分校 楠元璃子  
御殿場高校 杉村璃子  
浜松江之島高校 永田夏実

### 二 静岡大会の説明

#### ①実行委員会設置要綱

静岡大会の成功を期することを目的に設置された。

#### ②実行委員会組織

実行委員会役員会を中心に、総務企

画部、全体会・式典部、資料・広報部、歓迎部、分科会部が設置され、業務執行役員を部長に主管校・協力校が配置された。

#### ③実行委員会役員

##### 実行委員長

杉浦 政紀 (県高P連会長)

##### 副実行委員長

小山 全司 (県高P連顧問)

関 隆之 (県高P連副会長)

木村 光正 (県高P連副会長)

青山 健 (県高P連副会長)

山崎 好和 (県高P連副会長)

加藤 竜也 (県高P連顧問)

高塚 勝久 (県高P連顧問)

鈴木 敏彦 (県高P連名誉会長)

鳥居 春仁 (県高P連名誉会長)

乗松 修司 (県高P連名誉会長)

中川 好広 (県公立高等学校事務職員協会代表)

##### 業務執行役員

小杉 裕昭 (科技高P顧問)

望月美奈子 (吉原高P顧問・県高P連理事)

報道等で大きく取り上げられています。通学途中での事故で加害者になり得ることもあります。既に大きな事故ですと、八、〇〇〇万円、九、〇〇〇万円の損害賠償を求められる事例が発生しています。

安全振興会では、生徒約七四、〇〇〇名全員がこの賠償責任保険に加入しているため、自転車に限らず器物損壊などの賠償については二十四時間補償さ

## 事業計画

### 事業目的

次代を担う青少年の心身共健やかな成長と高等学校教育の更なる充実と発展を願っている私たちPTAは、生涯学習の視点に立脚して、自ら学び、自らの資質の向上に努めるとともに、青少年を取り巻く社会環境の整備と浄化を積極的に推進する。

また、社会教育団体として、家庭・学校・地域社会との連携を図り、家庭や地域の教育力の充実及び向上等に寄与する。そのため、次の重点目標を定め、事業を企画し積極的に推進する。

### 重点目標

一 自主的、主体的なPTA活動を推進し、充実した魅力ある学校づくりを支援する。

二 学校及びPTA相互の連携(公・私立を問わず幼・小・中・高校)を密に

れています。全国でも全員が加盟している県は少ないというふう聞いております。

結びに、これからも会員の皆様のお役に立てる会として、私たち役員並びに職員一同努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。理事長のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

し、地域ぐるみで青少年の健全育成を図る。

- 三 教育環境の整備及び充実を図る。
- 四 学校や関係機関等と連携し、就職・進学等の進路指導の充実に努める。
- 五 学校や関係機関等と連携し、防犯活動や交通安全教育・交通安全運動を一層推進する。

### 主な事業

#### 一 PTA研修会

目的 青少年の教育には、保護者自身の指導力を高め、家庭教育の充実を図るとともに、学校や地域社会との連携を深め、教育の成果を一層確かなものにしなければならない。そのために、次の研修会を開催する。

#### (1)静岡県高P連指導者研修会(総会)

期 日 平成28年6月2日(木)

会 場 しずぎんホール ユーフォニア

参加者 単位PTA指導者、校長、被表彰者等 三六七人

内容 総会、表彰、研修会

(2) 地区PTA指導者研修会

期日 平成28年6月～10月  
会場 県内11地区（特別支援学校  
P連含む）

参加者 単位PTA指導者及び県高  
P連会員、校長等

内容 青少年健全育成、家庭教育  
のあり方、地域活動の進め  
方等、地域の課題解決のた  
めのPTA研修

(3) 特別委員会研修

期日 平成29年2月7日(火)

会場 クーポール会館

参加者 県高P連役員

内容 未定

二 PTA指導者県外研修会

目的 高校生の健全育成の推進と  
社会教育団体としての見識  
を高めるため、県外研修に  
参加する。

(1) 東海地区高等学校PTA連合会総会  
及び静岡大会（講演、研究協議）

期日 平成28年6月17日(金)

会場 静岡市民文化会館大ホール

参加者 東海地区高P連会員等

一、六七三人

総会 平成27年度事業・決算・監  
査報告、平成28年度役員改  
選、平成28年度事業計  
画・予算案

講演

講師 松香 洋子 氏

演題 家庭・学校・地域で取り組  
むグローバル人材の育成に  
ついて

研究協議

研究発表① 静岡県立焼津水産高等学  
校PTA「生徒指導とPTA」

研究発表② 三重県立石薬師高等学校  
PTA「家庭教育とPTA」

○静岡大会は、静岡・清水地区の各高  
等学校PTAの役員の皆様「運営  
要員」として、会場準備、受付、会  
場係等でご尽力いただき、盛大に開  
催することができました。

(2) 第66回全国高等学校PTA連合会大  
会千葉大会

期日 平成28年8月24日(水)～26日(金)  
三日間

会場 幕張メッセ、アパホテル&  
リゾート東京ベイ幕張、ホ  
テルニューオータニ幕張

参加者 全国高P連会員等  
（静岡県 五三三人）

※前年度と比べて、約一四〇人増加  
しました。第67回静岡大会の実行  
委員会主管校・協力校の視察によ  
る増員です。

テーマ 「再発見！愛」～今こ  
そ信じよう愛の絆～

内容 8月24日(水) 前日会議等  
8月25日(木) アトラクシヨ  
ン、開会式、表彰式、基  
調講演、分科会

8月26日(金) アトラクシヨ

○基調講演

演題 「高校生の自立を支援する  
PTA活動のあり方」

講師 千葉敬愛短期大学  
学長 明石 洋一 氏

○分科会

① 全国高P連研究発表  
～進路選択と親子のコミュニケー  
ション～

② 第1分科会「学校教育とPTA」  
～再発見！愛 グローバル化に対応  
した資質・能力を育む～

③ 第2分科会「進路指導とPTA」  
～再発見！愛 希望進路を実現する  
進路指導～

④ 第3分科会「生徒指導とPTA」  
～再発見！愛 思いやりのある「豊  
かな心」を育む生徒指導～

⑤ 第4分科会「家庭教育とPTA」  
～再発見！愛 多様化する情報社会  
における青少年の健全育成～

⑥ 特別第1分科会「学校の危機管理と  
PTA」  
～生徒指導上の諸課題解決のために～

⑦ 特別第2分科会「情報機器と学校教  
育」  
～高校生のスマートフォン利用の状  
況と必要対応について～

三 青少年健全育成活動事業

目的 会員自らの実践活動を通し  
て、地域の教育環境の浄化や明る  
い家庭づくり、生徒の非行防止に

努め、生徒の善行表彰によって健  
全育成を図る。

(1) 高校生善行表彰

各校の奉仕活動・善行等を対象に、  
各校PTA会長及び校長から推薦され  
た個人・団体を、毎年10月に開催され  
る選考委員会で選考し、被表彰者及び  
団体を決定する。（賞状・賞品を贈呈  
しその功績を称える。）

四 会報発行

目的 情報提供や交換など、PT  
Aの機関紙として会員相互  
の連携を図り、共通理解を  
深めて協力体制を構築する。

発行 年二回（9月・1月）

内容 県高P連の活動状況や教育  
社会を取り巻く今日的な問  
題、課題など

五 関連団体との連絡・提携

静岡県PTA連絡協議会  
静岡県青少年育成会議  
静岡県青少年問題協議会  
静岡県青少年環境整備審議会  
「社会を明るくする運動」協議会  
静岡県交通安全対策協議会  
しずおか防犯まちづくり県民会議  
しずおか健康いきいきフォーラム21  
静岡県コミュニケーションづくり推進協議会  
静岡県NIE推進協議会  
静岡県社会教育委員会  
公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部  
一般財団法人 静岡県高等学校安全振興会

# 平成28年度研修会

## 井伊直虎に学ぶ

一族の命運を担った  
戦国女性の生涯

龍潭寺住職 武藤宗甫師

ご講演を頂きました武藤宗甫師は、平成二十六年度浜松西高校PTA会長に就任され、昨年度県公立高等学校PTA連合会総会において表彰を受けられました。今回のPTA研修会は、戦国時代から江戸時代の初期の井伊家の礎を築いた井伊直虎の生涯について、お話をいただきました。

龍潭寺の本堂は、平成二十年から三年間かけて、文化財の修理がようやく終わりました。本堂の裏には、小堀遠州の庭が国の名勝に指定されています。龍潭寺は、江戸の末期まで、江戸幕府から九十八石の石高が許されています。井伊家の支援により、徳川家康公から直に九十八石貰ったという書状を古文書として龍潭寺にいただいています。

奥浜名湖近隣の盆地を井伊谷といい、この井伊谷に、ちょうど一〇〇〇年前に井伊家の元祖である藤原の血を引いた藤原共資の息子として生まれた共保は、井伊家の国人領主、国衆と言われようになり、井伊谷を統治し始めました。戦国時代、井伊家は南朝を推しました。応仁の乱以降、西方の織田、徳川、東の今川、北条、北の武田と、その狭間にあります井伊家は、今川に侵攻され、あつけなく陥落してしま

ます。そして今川の配下となります。直虎は、天文五年に、井伊直盛の娘として生まれました。井伊家の一人娘であったため、父直盛は五歳の直虎に、いとこの直親を許婚として井伊家を継承させようとはしますが、直親の両親、叔父が殺され、九歳の時に直親は、飯田まで逃げて身を隠してしまいます。この時、直虎は悲嘆にくれ、許婚が亡くなったと、龍潭寺の門をたたき出家してしまいます。父直盛は、やめるよう諭しますが、剃髪し尼僧となります。仕方なく直盛は龍潭寺南溪和尚に、男として出家させてほしいと頼みました。ところが直虎二十歳の時、許婚の直親が飯田から戻りました。既に直親は結婚してしまいました。

今川義元の旗本とであった父直盛は、永禄三年、今川義元について桶狭間に出ますが、あつけなく死んでしまいました。その翌年、許婚であった直親に、後に井伊家の歴史をつくる直政が生まれています。その後、直親も今川義元の息子氏直に殺されてしまいました。

永禄三年、四年、五年と井伊家は家臣、家老がほとんどいなくなり、直虎は、永禄八年に龍潭寺南溪和尚の命により、井伊家の女城主となりました。井伊谷城主として「徳政令」(借金帳消しの法令)を出すなど永禄十一年まで活躍しています。また、直政二歳の時、井伊家の後釜にする後見人を頼まれ養母となり、十五歳まで育て上げました。元服すると徳川家康に相見させ、家康の側近として働き始めるのがこの時代です。

直政は、本能寺の変による「伊賀越え」や関ヶ原の合戦などの先手を果たすなど活躍し、慶長八年江戸幕府ができた時には、家康のナンバー二として

十八万石をいただく勇猛果敢な家臣となり、最後には彦根城三十万石の城をもらい受けています。ここに直虎の夢であった名門井伊家の復活が成されました。

先週NHKで発表されました来年はじまるNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」意図を読ませていただいて、私の講演を終わりたいと思います。

(企画意図) 時は戦国。所は遠江井伊谷。駿河の今川、甲斐の武田、三河の徳川と三つの大国に囲まれた小さな国は、曾祖母の代から戦に負け続け、国を継ぐべき男の子が皆失われてしまった。お家断絶を目前にしたこの絶体絶命の危機に井伊家を背負って立つたのが、尼となった一人娘である。尼の立場から、弱肉強食の乱世のただ中へ。「直虎」と名乗って井伊家の城主となり、資源も武力も乏しい井伊谷で、幼い跡継ぎの命を守ってたくましく生き延び、その後の井伊家の発展の礎を築いた。この数奇な運命に翻弄された主人公の生きざまの中に、現代人が今を生き抜くヒントが満ちている。三つの指針として、一つが「幼き日にかわした許婚との熱い約束」。二つ目が「ばらばらな家臣団が頼れるチームに」。



講演者 武藤宗甫 師

「政敵が最良の伴侶に、ライバルが心許せる友に」。三つ目が、「天下人にならないが絶対滅びない、本当の強さを求めたリーダーの知恵」とあります。

# 東海地区高P連合会 総会・静岡大会

## 東海高P連総会報告

平成二十八年年度東海地区高等学校PTA連合会静岡大会が六月十七日(金)に静岡市の静岡市民文化会館大ホールを会場に開催され、愛知県・岐阜県・三重県そして、静岡県の四県から、一、六七三人の会員の参加を得て行われました。大会前に行われた総会では、  
一 平成二十七年事業・決算・監査報告  
二 役員改選  
三 平成二十八年事業計画・予算案について審議され、承認されました。

承認された「平成二十八年度東海地区高P連役員」は次のとおり  
会 長 杉浦 政紀(静岡県高P連会長)  
副会長 加納 一郎(岐阜県高P連会長)  
副会長 酒井 延直(愛知県高P連会長)  
副会長 細瀧 修(三重県高P連会長)  
監 事 久保田嘉彦(岐阜県高P連監事)  
志知 里歌(愛知県高P連監事)  
その他(本県分)  
理 事 関 隆之(副会長)、小山全司(顧問)、鳥居春仁(校長理事)  
代議員 木村光正(副会長)、青山 健(副会長)、河合恒一(理事)

## ◎杉浦会長挨拶(要旨)

本日の総会で東海地区高P連会長に選任されました静岡県の杉浦政紀です。ご来賓と本日参加の皆様にお礼申し上げます。

PTAの基本は単位PTAの活動です。地区・県・東海・全国が持ってい



会長あいさつ

る情報を提供し、子供たちのためになる情報を共有することが大切です。

本日の講演のテーマである「グローバル教育」は、

全国でも取り上げられ、平成二十九年度全高P連静岡大会分科会のテーマの一つでもありますので、本日の講演会を参考にしてください。

来年開催される全国高P連静岡大会は、テーマを「有徳の人づくり」〜未来のために行動する一人を育てよう〜としました。これは静岡県の教育方針でもあります。東海地区の代表として全国一万人の皆様を「おもてなし」したいと考えています。

東海各地区のご協力をいただき多くの会員の参加をお願いし、ご挨拶とします。

◎佐野全国高P連会長挨拶 (要旨)

全国高P連会長の佐野です。所属PTAは、秋田県立秋田高等学校です。本日は平成二十八年度東海地区高P連大会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、共催者としてお礼申し上げます。また、来年の八月、静岡県で開催されます第六十七回全国高P連大会でお世話になります。

いま日本の教育が大きく変わろうとしています。一番に高校、そして大学の教育改革があり、特に、それを繋ぐ



全国高P連 佐野元彦会長あいさつ

大学入試が大きな課題となつて、高大接続システム改革会議に委員として参加しています。

現在、少子高齢化、第4次産業革命、

グローバル化など、社会が大きく変化する中、日本の社会を支える人や自立した人の育成が重要であるとされています。

私たちPTAは、「保護する人」から「自立を支援する人」であることが求められてきます。教師としっかりタッグを組んで次の時代を担う人材を育成する社会の構築が必要です。各単位PTA活動を一層活発にし、子供たちの将来が希望あるものにしていただきますことを願ひ、開会のご挨拶とします。

来賓祝辞

来賓祝辞を、静岡県教育委員会教育長 木苗直秀 様、静岡県高等学校長協会会長 鳥居春仁 様よりいただきました。

一 講演

講師に、株式会社mp i松香フォニックス会長 松香洋子氏を招き、「家庭・学校・地域で取り組むグローバル人材の育成」の演題で行われました。松香氏は、玉川大学・早稲田大学・カリフォルニア州立立大学院を卒業され、オランダユトレヒト大学で英語教育を研究され、日本で初めて本格的にフォ

ニックス学習を導入し、松香フォニックス研究所を設立され、「英語でコミュニケーションができ、国際的マナーを身につけた子ども」を育てる児童英語教育の普及に貢献されました。講演では、ご本人のこれまでの仕事(英語教育)をおして、日ごろ思っている話しゃることを、随所に英語によるゲームを取り入れながら、わかり易くお話されました。

(講演内容) まとめ

(一) これまでの仕事をとおして  
①日本は総じていい国である。海外で日本の学生は評判が良いが、英語ができない。自己主張ができない。挨拶ができないという問題がある。

② 十年後、二十年後、英語は当たり前、英語教育は、最初にプロソディ、二番目に聞く、話す(相手とのやり取り含む)、読む、書くの五技能、三番目がフォニックスという子供が初めてから英語を直接読んでいくという指導法が必要である。

③ 英語を知ると英語を使うとは違う。英語を知ると、英語を使う。たった1つでも使ってみると違う。多読、いっぱい英語を読むこと。最後はプレゼンすること、スピーチすること。中学三年生までにこのような習慣を身につけさせることが重要である。

(二) 高校生とグローバル教育

① 英語というのは、英語だけできれいなことではない。英語が家庭です。日本語で喋れないのに、英語がべらべら出てくることはない。普段から挨拶をすること、褒めること、そして、家庭において会話の応答は、その考えや

理由を3つ答える習慣を付けることが大切である。

② この国を離れて外から見るというのは絶大なる効果がある。旅行先や留学先のことを徹底的に調べさせる準備教育や相手のことを尊敬できるように準備教育がとても大事だ。また、海外での数日間の生活を客観的に見ることで、日本の良さや家族の良さがわかり、外に出ないとわからない。このことが大事なグローバル教育である。

③ 思考は地球全体のこと。環境問題、少子高齢化、戦争勃発、資源の枯渇等問題だらけの地球のことを考えながら、実際の行動は自分の県、市町村でいるいるなことをやると、それはすぐ世界に繋がる。これをグローバル教育と言いい、ローカルが発信してグローバルにも、グローバルからローカルにも行くことです。どのようにしたら、そのようにできるかは、毎日の会話の中にも必要であり、そのように仕向ける教育が必要である。

(三) 芸のある人材を育てること

① これからの世の中、ITや人工知能、ロボットなどがさらに発達して、今の仕事がなくなくなる。どういいう仕事をするかというときに、どういう仕事をするかを探せるような人間を育てること。英語も大事であるが、態度自信、面白いことを言うなど人間的魅力が必要である。  
② 日本語で



講師 松香洋子氏と会員

できないことは英語でできない。人前に立って話す。なるべく簡潔に話す。そして面白いことも言う。そういうことがいい。世界に出ていくには英語とコンピュータは必要、あとは性格。それに一番必要なのは、一芸を持つこと。

③一芸がない人はどうしたらいいか。愛想よくする。褒めまくる。意見を持つ。

英語だけが大事なわけではありません。いい人間、すばらしい人間。「あなたと友達になりたいな」と思うような人間にならなければ、やっぱりグローバル教育をしても意味がないし、そういうことに全てつながっていくと思う。

## 二 研究協議

### 第一研究協議 「生徒指導とPTA」

の分野で静岡県立焼津水産高等学校PTAの興津邦彦会長他五名の皆様より、「生徒指導は朝ご飯から朝食をしつかり食ることが与える好影響」をテーマに発表が行われました。平成十七年度から学校保健課の「朝食の欠食率を下げる取組み」が始まり、PTA地区会で保護者も朝食をしつかり食べさせる呼びかけを行いました。平成二十七年までの朝食欠食率、出席率、



焼津水産高校PTA

歯科治療勧告率、新体力テスト総合順位、生徒指導件数・人数等数値データをもとにその成果を発表されました。欠食率は二年間で激

減し、現在〇・五%となり各調査結果とも大きく改善できたとの発表がありました。

### 第二研究協議 「家庭教育とPTA」

の分野で三重県立石薬師高等学校PTAの阪倉悦子前会長より「PTA活動と家庭教育力向上に向けての取組み（生徒や先生方と共に学ぶ）」をテーマに発表がありました。同校では、PTAと協力して「朝の挨拶運動」「環境美化運動」や「文化祭の模擬店」を行っています。五月に行われるPTA総会は例年出席者数が大変少なく、土曜日の公開授業や三年生進路説明会を行っているが効果が上がっていない。

昨年度より、PTA活動に親身がいろいろなことを学び、家庭での教育力を高めることが必要であると研修会や講座を三回開催しました。「性的マイノリティLGBT」「生徒の平和学習講演会参加」「スマホ・SNS等に関するネット啓発講座」を開催しました。PTAの課題である参加率は低かったが参加した会員には好評でした。今後は会員に興味関心を持つてもらい参加率を上げるようにしたいとの発表がありました。



三重県 石薬師高校PTA

# 全国高等学校PTA連合会

## 総会・理事会・常置委員会

平成二十八年六月二十五日(土)、二十六日(日)の二日間、東京ガーデンパレスを会場に、平成二十八年全国高等学校PTA連合会総会・理事会・常置委員会が開催されました。

総会では、平成二十七年事業・収支決算・監査報告、平成二十八年役員改選、会長・副会長の選任が審議され、承認されました。

第六十五回全国高P連岩手大会決算報告、第六十六回全国高P連千葉大会実行委員長挨拶、第六十九回全国高P連大会主管委嘱（京都府・京都市共同開催）、東日本大震災に係る義捐金第八次分、四月十四日と十六日に発生した熊本地震義捐金第一次分の贈呈が行われました。

### 「平成二十八年度役員」

- 会長 佐野 元彦（秋田県）
  - 副会長 牧田 和樹（富山県）
  - 副会長 森崎 綾子（京都府）
  - 専務理事 木戸 浩久（大分県）
  - 常務理事 内田志づ子（事務局長）
  - 理事 杉浦 政紀（静岡県）
- ほか十人、監事二人

## 千葉大会

第六十六回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が八月二十四日(水)、二十五日(木)、二十六日(金)の三日間、千葉県千葉市幕張メッセ、イベントホールをメイン会場・サブ会場に二〇、三〇四

人の参加を得て、開催されました。静岡県からは、第六十七回静岡大会準備の視察もあり、例年より多い五三三人が参加しました。

静岡大会実行委員会主管校・協力校の皆様は、二十四日(水)の分科会別運営会議・リハーサル・レセプション、二十五日(木)の受付・歓迎アトラクション・開会式・基調講演・各分科会、二十六日(金)の受付・歓迎アトラクション、記念講演・分科会報告・閉会式と静岡大会で担当される内容の確認と実施の状況を視察されました。また、閉会式では、全国高P連佐野会長より、全国高P連旗が次期開催静岡県高P連杉浦会長に授与されました。

### 大会テーマ

「再発見！愛」  
 ～今こそ信じよう愛の絆～

### 一 全体会

メイン会場…幕張メッセイベントホール  
 サブ会場 …国際展示場9ホール  
 開会式では、千葉大会実行委員会大木幸夫委員長の歓迎と大会の成功を祈る力強い挨拶がありました。



千葉大会実行委員会 会長 大木幸夫

続いて、全国高P連佐野元彦会長から開催県へのお礼と大会の成功、そして、これからのPTA活動のあり方について式辞がありました。

した。  
 来賓祝辞では、松野博一 文部科学大臣、森田健作 千葉県知事、熊谷俊人 千葉県長よりご祝辞をいただきました。  
 続いて、全国高P連会長表彰（個人・団体）、優良PTA文部科学大臣表彰を受賞された方々の表彰式が行われました。本県の全国表彰は次のとおり

【全国高P連会長表彰（個人）】

静岡県高P連 副会長

青山 健 氏

普通高校と商業高校が統合された新しい学校で、単P会長としてPTAをまとめ、円滑な運営に尽力した。県高P連副会長として一年間務め、会長の補佐、各会運営に奔走され、PTA活動の充実と発展に大きく寄与した。

【全国高P連会長表彰（団体）】

県立清水西高等学校PTA

文化及び広報、厚生、育成の各委員会活動を活性化した。特に、厚生委員会は年三回の交通安全街頭指導を行い、育成委員は生徒等を対象に大学オープンキャンパスツアーを実施するなど学校の教育活動推進に貢献した。

【全国高P連会長表彰（団体）】

県立浜松商業高等学校PTA

平成二十二年度に発足した「鮭の会」（同窓会、学校後援会、現役及びOBのPTA役員、学校が合同で運営）は、本校を卒業して県外に進学し

た生徒の地元浜松への就職支援事業を、発足以来六年間にわたって行っている。

【優良PTA文部科学大臣表彰】

県立沼東西高等学校PTA

九〇〇人以上の総会員数、百人以上の役員で協力的に運営されている。年四回の役員会、理事会の出席率は九割以上で、総会の出席率も七割を超える。年間を通じてPTA組織が学校及び外郭団体（同窓会、振学対策委員会、奨学会）と連携を図り、教育活動全般を積極的に支援している。学校行事等に多くの会員が参加し、生徒の自主的活動を暖かく見守る。



全国高P連表彰  
 清水西高校PTA  
 浜松商業PTA の紹介



表彰式風景  
 全国高P連 佐野会長より

二 基調講演

演 題：高校生の自立を支援するPTA活動の在り方

～今こそ信じよう高校生～

講演者：千葉敬愛短期大学

学長 明石 要一

高校生の体験活動に格差が生じ始めている。年中行事など経験豊富な者とそうでない者二極化である。高校生では、卒業後、進学も就職もしない者がいる。1億総活躍社会の実現は、これらの格差是正が必要だ。そこで、元気な高校生の育成の推進が求められ、PTAの出番である。

PTA活動は、役員の人選がとても大変であり、苦慮する先生も多い。そんなとき、保護者に握り拳をつくらせてその握り方がどの役員に適しているかわかる。①親指を外に出して握る、②親指を他の指で包み込むように握る、③親指を人差し指の上に握る三つである。会長・副会長向きは①である。役員人選で利用してみるとよい。

さて、PTAの役割は、三つある。一つに基本的な生活習慣の徹底、二つに高校生のボランティア活動参加の支援、三つに褒めて、叱って育てる運動の推進がある。

三 分科会

①全国高P連研究発表

～進路選択と親子のコミュニケーション～（幕張イベントホール）

②分科会

第一分科会 学校教育とPTA  
 ～再発見！愛 グローバル化に対応した資質・能力を育む～（国際展示場9ホール）

第二分科会 進路指導とPTA

～再発見！愛 希望進路を実現する進路指導～（国際展示場2ホール）

第三分科会 生徒指導とPTA

～再発見！愛 思いやりのある「豊かな心」を育む生徒指導～（国際展示場3ホール）

第四分科会 家庭教育とPTA

～再発見！愛 多様化する情報社会における青少年の健全育成～（国際会議場コンベンションホール）

③特別第一分科会

学校の危機管理とPTA

～生徒指導上の諸課題解決のために～（アパホテル&リゾート東京ベイ幕張ホール）

④特別第二分科会

情報機器と学校教育

～高校生のスマートフォン利用の状況と必要な対応について～（ホテルニューオータニ幕張鶴の間）

四 記念講演

演 題：私の選んだ女優の道

講演者：女優 市原悦子 氏

私は、女優であり、舞台は厳しいが稽古が好きで一生懸命やりました。稽古はお金が要らない。本番がなければもっと好きです。今日のような全国のPTAの皆様が集まるようなところでのお話は、稽古が出来ないので苦手です。皆様にお話をすることはありませんが、今日は私の人生のポイントをお話しします。

戦時中、北海道に疎開していました。疎開先では食糧難で苦しみ、食べれるものは何でも食べました。この時の体

大会宣言

「『再発見!愛』～今こそ信じよう愛の絆～」をテーマに、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が、房総の地で開催され、大きな成果を収めました。我が国では、長い間、子どもは「家庭や地域の宝」であり、みんなで子どもを育てて来ました。私たちは、ここに子どもに対する深い愛情を感じたものでした。ところが、近年、社会の在り方や価値観が大きく変化し、家族や地域のつながりは弱いものとなり、子どもをみんなで育てようとする気持ちが薄らいできたように思います。

私たちは、かつては当たり前だった「家庭と地域の教育力」に注目し、「学校の教育力」と手を携え、子どもをみんなで育てようとする社会の再生を提唱します。それは、子ども、家庭、そして地域も生き生きとする社会です。家庭、地域、学校の協力を「絆」、子どもを育てることを「愛」と考えると、「絆」を再構築することが、「愛」の再発見につながります。本大会では、子どもたちをみんなで育てる社会を再び作り上げるために、PTAの果たす役割や活動の在り方について熱心に討議されました。ここに大会の成果を踏まえ、PTA活動がより一層、活性化し発展することを願い、以下のとおり宣言します。

- 一 これからのグローバルな社会に対し、子どもたちが自分で考え、行動し、多様な社会に対応出来る力を高められるように、私たち大人が、環境を整え、子どもたちの資質や能力を育むように努める。
一 自分の夢は何なのか、将来自分のやりたい事は何か、子どもたちの夢や希望を叶えるために、私たち大人が連携し、手本を見せ、子どもたちの夢の実現の支援に努める。
一 大切なものは何か、必要なことは何か、子どもたちの個性や感性を伸ばすために私たち大人が家庭、学校、地域で連携し、子どもたちの思いやりのある豊かな心を育てるように努める。
一 情報が溢れ、利便性が飛躍的に向上している社会の中で、子どもたちが正しい知識や、コミュニケーション力を培う必要がある。そのために、私たち大人が、人と人との付き合いを通して子どもたちに、次世代に繋がる真の信頼関係を築くためのコミュニケーション力を伝えるように努める。

第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会において宣言する。

平成28年8月26日
一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

駿が女優としての自分を形成しました。疎開先から戻り、学校では演劇部に入り、音楽の先生であった顧問の先生が好きでした。先生は、演劇部全ての子たちが主役であると接してくれました。高校、大学と進み父と同じ銀行員となりましたが自分には向いていないと嫌でたまりませんでした。そして、友人から紹介された演劇学校に入りました。繰り返される稽古とお芝居の毎日でした。

最初は受け入れてもらえませんが、自分と違った人を理解することは、演劇の、役者の仕事の基となります。同時に、自分を豊かにします。私はのめり込むことが好きです。人とぶつかり合つてとことん自分の意見を言つて、ものを作つていくことが喜びであり、不安でもあります。そして不安を持つ者が集まり演劇をやっています。講演の後半に、参加会員に皆様の心に沁みる「朗読」がありました。①グリム童話「ねずみの木の話」②野坂昭如戦争童話集「凧になったお母さん」

「高校生の健康・安全に係る現状と取組」

県教育委員会健康体育課

平成二十八年度より県教育委員会は、危機管理・安全、学校保健、給食・食育を担当としていた健康安全教育局とスポーツ振興課の学校体育班を統合して新たに健康体育課を設置し、高校生の健康・安全に係る取組を推進しています。

保健室からみた生徒の健康課題

保健室来室状況からは、睡眠不足や朝食欠食等、生活習慣が原因と思われる体調不良や、人間関係の悩み等から心身の不調につながっているケースが見られます。また、健康診断からは、歯科検診後の治療勧告者(う歯、歯周疾患等)の受診率が低いことがあげられます。その他にも、アレルギー疾患、体育・部活動中のけが、インターネットの使用・依存などからくるコミュニケーショントラブルなど、その課題は多岐に渡っています。

アレルギー疾患に対する対応

過去の事故事例を受けて、学校ではアナフィラキシーショックへの対応などの危機管理が重要になってきています。食物依存性運動誘発アナフィラキシー(運動と原因食物の組合せにより症状が誘発される。)が発生する可能性もあることから、アレルギー疾患に対する対応のため、医師の専門的な指示のもと、保護者、主治医、学校との間で子どもの健康状態を共有し、緊急

時の連絡体制を整え、アレルギー疾患をもつ生徒が安心して学校生活を送ることができるよう支援していきます。

生徒の心と身体を守るために

近年では、人と人との直接のコミュニケーションなど人間関係づくりが苦手な生徒が多くなっています。また、ネット依存等による心身の不調が大きな健康課題の一つであることから、コミュニケーション能力の向上や自己肯定感の育成に努めていく必要があります。そのような子供のサポートには、日常会話や相談など子供との関わりが重要であるため、短い時間でもお子様とメールだけでなく直接会話するなど、コミュニケーションの時間を大切にしたいと大きくお願いいたします。

また、平成二十八年七月に文部科学省から児童生徒の自殺予防についての状況と対応策について通知されました。十八歳以下の自殺の特徴として、長期休業明けに急増する傾向が見られるため、学校として自殺予防のための積極的な対応が求められており、具体的には、生徒が発するわずかな兆候を見逃さずに早期発見に向けて変化を把握し、傾向が見られた場合には保護者や関係機関と組織的に対応していくこと、家庭での保護者の見守りや、学校内外での見守り活動等、生徒の生命や安全を確保することについて重点的に取り組むことが挙げられています。本県の高校生の怪我等の災害については平成二十七年には七千六十三件が発生しており、そのうち、体育授業

中が千五百十三件、体育的部活動が四千二百三十件で全体の約八十%を占めています。また、怪我の種類としては、骨折、挫傷・打撲、捻挫が全体の七十三%を占めています。このような調査結果を踏まえ、保健体育科主任や部活動顧問に対して研修を実施するなど、事故防止対策の徹底及び指導法の改善に努めているところです。

**高校生の交通事故の現状と取組**

平成二十三～二十七年の本県の高校生生の交通事故死者数の推移を見ると平成二十七年には発生件数が千四百件を下回るなど減少傾向が見られます。特に、交通事故全体の七十%を占める自転車事故が千件を下回るなど、各学校や家庭、警察等の関係団体の交通安全指導の成果がうかがわれます。

事故原因としては、一時不停止が三十%、安全不確認、前方不注意が各十五%程度であり、運転者の意識向上により一層の事故防止に繋がることと考えられます。

平成二十七年六月には道路交通法が一部改正され、自転車の信号無視や一時不停止などの危険行為を繰り返した場合には安全講習が義務付けられるなど、自転車運転のルールが厳格化されています。さらに、自転車による加害事故についても高額の損害賠償が命ぜられるケースが発生しており、自転車運転者にも、もしもの時の備えが必要となるため、保護者の皆様にも家庭での対応が求められます。

今後、県教育委員会としまして各学校における日頃からの交通マナー向

上の取組に加えて、教員に対する研修会を実施するなど交通安全教育の充実を図っていきます。

**本県の高校生の自転車事故状況  
—自転車事故の推移と事故原因—**

違反例	第1当事者	割合	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	
一時不停止	88	34%	事故全体(件)	1,753	1,766	1,573	1,483	1,376
安全不確認	38	15%	自転車事故(件)	1,307	1,301	1,162	1,066	949
信号無視	18	7%	自転車事故割合	74.6%	73.7%	73.9%	71.9%	69.0%
前方不注意	42	16%						
その他	71	28%						
全体	257	100%						

- 参考文献
- ・二十三年度調査結果 保健室利用状況に関する調査報告書 公益財団法人 日本学校保健会
  - ・統計情報システム 日本スポーツ振興センター
  - ・児童生徒の自殺予防に係る取組について(通知) 文部科学省
  - ・警察統計、警察資料

**平成28年度静岡県公立高等学校PTA連合会 役員名簿**

(注)	No.	役職	氏名	学校名	推薦地区名
	1	会長	杉浦政紀	浜松北	県高P連役員会
	2		関隆之	葦山	
	3		木村光正	沼津東	
	4		青山健	清水桜が丘	
	5	副会長	山崎好和	浜松北	県校長協会
	6		鳥居春仁	静岡岡	
	7		勝又津久志	沼津東	
	8	校長理事	磯貝信二	清水東	高P連役員会
	9		鈴木啓之	浜松北	
	10	常務理事	遠藤師正	事務局	賀茂
○	11	理事	館岡孝弘	稲取	三島・田方
○	12		佐々木淳一郎	三島北	
	13		宮澤克実	葦山	
	14		山下靖	田方農業	
○	15		西山哲朗	市立沼津	沼津・駿東
	16		成川勝一	沼津商業	
○	17		遠藤陽子	富士市立	富士・富士宮
	18		鈴木江利子	富士宮西	
	19		望月美奈子	吉原	清水
○	20		兼高光清	清水東	
○	21	河合恒一	静岡岡	静岡	
	22	望月之次	駿河総合		

(注)	No.	役職	氏名	学校名	推薦地区名
○	23	理事	横山武良	相良	志太・榛原
	24		鈴木毅	島田商業	
	25		早川重弥	金谷	
○	26		小嶋隆	掛川西	
	27	栗林達明	池新田		
○	28	理事	鈴木誠	天竜	磐田
	29		東俊行	磐田農業	
○	30		秋田昌一	浜松湖南	
○	31	理事	三輪高太郎	浜松北	浜松北部
	32		伊藤祐司	浜北西	
○	33	監事	深澤志乃	富士特支	特別支援P連
	34		秋葉満則	御殿場南	沼津・駿東
	35		杉山昌之	静岡農業	静岡岡
	36		西尾進治	浜松江之島	浜松南部

(注) ○印は地区世話人理事

No.	役職	氏名	所属学校名	推薦地区名
1	名誉会長	鈴木敏彦	富士	県高P連役員会
2		芦川清司	静岡農業	
3		豊岡武士	葦山	
4	顧問	加藤竜也	吉原工業	
5		小山全司	焼津中央	
6		高塚勝久	磐田南	

平成28年度単位PTA会長名簿

Table with 4 columns: No., 学校名, 会長氏名. Lists PTA chairpersons for 120 units across various schools in Shizuoka Prefecture.



静岡県内の公立高等学校及び県立特別支援学校等の児童・生徒等が健康で安全・安心な学校生活を送ることを願...

一般財団法人 静岡県高等学校安全振興会

静岡県高P連ホームページ案内

情報公開と説明責任を果たすことを目的として平成14年6月5日に開設しました。平成27年6月5日(金)の県高P連総会の承認を受け、『静岡県公立高等学校PTA連合会』に改称し全体を見直しました。



リンク先は、全国高等学校PTA連合会、各都道府県高等学校PTA連合会、関連省庁、静岡県関連、安全振興会関連、静岡県公立高等学校、静岡県立特別支援学校となっています。

Table with 2 columns: 役職 (Roles) and 氏名 (Names). Lists board members and their schools for the Shizuoka Prefecture High School Safety Promotion Association.

任期 平成二十八年六月二日から 平成二十九年定時評議員会終結時まで

平成28年度一般財団法人静岡県高等学校安全振興会役員名簿

Table with 2 columns: 役職 (Roles) and 氏名 (Names). Lists board members and their schools for the Shizuoka Prefecture High School Safety Promotion Association.

任期 平成二十八年六月二日から 平成三十一年定時評議員会終結時まで